日本の資源と産業

名前

問1　日本の主要な空港における貨物取扱量の統計において、国際線貨物取扱量が1,900千トンを超え、2位以下の空港に数倍以上の差をつけて国内最大の国際物流拠点となっている空港はどこか、名称を答えなさい。（2014年 沖縄県公立入試 類似）

1. 関西国際空港
2. 東京国際空港（羽田空港）
3. 成田国際空港
4. 中部国際空港

問2　長野県などの山間部で見られる林業の現状について、高度経済成長期以降の社会状況と関連付けた記述として正しいものを選びなさい。（2018年 神奈川県公立入試 類似）

1. バイオマス発電への転換により木材価格が急騰し、林業に従事する若者が都市部から大量に流入した。
2. 林業の機械化が完了したことで、人手を使わずにすべての木材を安価に生産できるようになった。
3. 木材価格の低迷や過疎化・高齢化の影響で、手入れが行き届かない森林が増加した。
4. 木材の輸入が厳しく制限されたため、国内の森林資源の活用が急速に進んだ。

問3　日本の農業の現状を分析した統計資料において、農業従事者の平均年齢の上昇と、耕作放棄地の面積の推移には密接な関連が見られます。この背景にある、農業従事者の高齢化が耕作放棄地を増大させる因果関係の説明として、最も適切なものはどれですか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 高度経済成長期以降、農地の大部分が工業用地や住宅用地へと計画的に転用されてきたため。
2. 労働力の中心となる世代が減少し、体力的な限界や後継者の不在によって農地の管理が困難になるため。
3. 海外からの安価な農産物の輸入に対抗するため、国の方針で生産性の低い農地の集約を進めているため。
4. 若年層が都市部へ流出した結果、農村部で合計特殊出生率が急激に低下し、子供の数が減ったため。

問4　日本の工業地域を比較した統計において、中京工業地帯、北陸工業地域、東海工業地域の3地域を比べたとき、東海工業地域の傾向として述べた文として正しいものを選びなさい。（2018年 静岡県公立入試 類似）

1. 3地域の中で工業出荷額が最も多く、鉄鋼や石油化学などの基礎素材工業が中心である。
2. 中京工業地帯と比較して、情報通信機械器具の出荷額が輸送用機械の出荷額を大きく上回っている。
3. 工業出荷額の合計は中京工業地帯より少ないが、出荷額に占める輸送用機械の割合が高い傾向にある。
4. 輸送用機械の割合は北陸工業地域よりも低く、食料品や繊維工業の割合が半分以上を占めている。

問5　日本のリンゴ収穫量の上位2県である青森県（全国1位）と長野県（全国2位）について、これらの地域で共通してリンゴ栽培が盛んになった自然環境の背景として最も適切な説明を、次の中から選びなさい。（2020年 千葉県公立入試 類似）

1. 夏の気候が比較的冷涼であり、リンゴの生育に適した環境であるため
2. 黒潮（暖流）の影響を強く受け、冬でも霜が降りないほど温暖なため
3. 年間を通じて降水量が非常に多く、常に湿潤な土壌が保たれているため
4. 広大な平野部が広がり、大型機械を用いた大規模な稲作の裏作として適していたため

問6　日本の農業に関する統計において、収穫量の約8割を北海道が占め、次いで長崎県が上位に位置している作物はどれですか。最も適切なものを選びなさい。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. たまねぎ
2. てんさい（ビート）
3. さつまいも
4. じゃがいも

問7　北海道が収穫量1位であり、長崎県が上位に含まれる農産物の生産状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. 北海道では大型機械を用いた大規模な畑作が行われ、長崎県では温暖な気候を活かした栽培が行われている。
2. 北海道では近郊農業として都市部への出荷が中心であり、長崎県では促成栽培が主力となっている。
3. 北海道では水田の裏作として栽培されており、長崎県では抑制栽培によって出荷時期を遅らせている。
4. 北海道ではシラス台地を利用した畑作が行われ、長崎県では棚田を利用した米作りが盛んである。

問8　大都市の周辺で行われる近郊農業の特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 石川県公立入試 類似）

1. 広大な土地を活かして機械化を進め、輸出を目的とした米の生産を大規模に行っている。
2. 冬の温暖な気候を活かして、他の地域よりも出荷時期を早める野菜の生産に特化している。
3. 高冷地などの冷涼な気候を利用して、夏にレタスやキャベツなどの野菜を生産している。
4. 消費地に近いため、鮮度が重要となる野菜の生産や、輸送コストを抑えた畜産を組み合わせている。

問9　日本の貿易において、東京港や大阪港などの大消費地に隣接する港の輸入品目を分析した際、千葉港などの工業港と比較して割合が高くなる傾向にある品目として、最も適切なものを選択してください。（2015年 山口県公立入試 類似）

1. 衣類
2. 液化天然ガス
3. 鉄鉱石
4. 原油

問10　日本の国内輸送の変遷を記した資料において、1960年代以降に鉄道のシェアが低下し、代わって自動車が輸送の主力となった背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 岡山県公立入試 類似）

1. 格安航空会社（LCC）の参入により、国内の旅客輸送の大部分を航空機が担うようになったため。
2. 高度経済成長期の資源輸入の増大に伴い、内航海運による国内貨物輸送が鉄道を上回ったため。
3. 道路網の整備が進み、自家用車やトラックが普及するモータリゼーションが進展したため。
4. 環境負荷を抑えるため、トラックから鉄道や船舶へと輸送手段を転換するモーダルシフトが完了したため。

問11　日本の農業において、農業従事者の高齢化が進むことで、体力的な負担の増大や後継者不足が深刻な問題となっています。これらの要因が直接的な原因となり、以前は作物が作られていたものの、現在は長期間にわたって作付けが行われていない農地が全国的に拡大しています。このような農地のことを何と呼びますか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 干拓地
2. 休耕田
3. 遊休知
4. 耕作放棄地

問12　東北地方や九州地方において、宮城県や福岡県は地方の産業や交通の拠点となる「地方中枢都市」としての役割を担っています。これらの県が周辺の県と比較して持っている統計上の特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）

1. 農業に従事する世帯数が周辺県に比べて極めて多い
2. 人口密度が低く、広大な森林面積を維持している
3. 空港の利用客数のみが突出しており、陸上の交通網は未発達である
4. 人口が300万人を超え、事業所数も15万以上と突出して多い

問13　日本とオーストラリアの貿易について説明した文として、統計的な事実に基づき適切なものはどれですか。なお、日本からオーストラリアへの輸出総額は約1兆5000億円でそのうち乗用車が約38%を占め、オーストラリアからの輸入総額は約5兆900億円でそのうち牛肉が約3%強を占めているものとします。（2017年 香川県公立入試 類似）

1. 乗用車の輸出額は、日本からの輸出総額の半分以上を占めている。
2. 牛肉の輸入額は、乗用車の輸出額を上回っている。
3. 乗用車の輸出額は、牛肉の輸入額を大きく上回っている。
4. オーストラリアとの貿易において、日本の輸出総額は輸入総額を上回っている。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 成田国際空港	千葉県に位置するこの空港は、日本を代表する空の玄関口として整備されてきました。特に電子部品や精密機器、医薬品といった「軽くて高価な」製品は、迅速な輸送が求められるため航空貨物として扱われることが多く、世界的なネットワークを持つこの空港が国内最大の拠点となっています。その取扱規模は、アジアのハブを目指す那覇空港などの地方拠点空港を圧倒しています。
問2	答え 3 木材価格の低迷や過疎化・高齢化の影響で、手入れが行き届かない森林が増加した。	外国産木材の輸入拡大による価格低迷に加え、農山村部における過疎化や高齢化が進行したことで、林業の担い手が不足しました。その結果、枝打ちや間伐といった適切な管理が行われない森林が増え、土砂災害防止や水源涵養といった森林の持つ多面的な機能の低下が懸念されています。
問3	答え 2 労働力の中心となる世代が減少し、体力的な限界や後継者の不在によって農地の管理が困難になるため。	農業は重労働を伴うため、従事者の高齢化は作業の継続を困難にします。また、若者が都市部へ流出する過疎化の影響もあり、親の農地を受け継ぐ人がいなくなる「後継者不足」も、耕作放棄地が拡大する主要な要因です。合計特殊出生率の低下（少子化）は社会全体の背景ではありますが、農地が具体的に放置される直接の仕組みとしては、労働力としての維持が不可能になることが最大の理由です。
問4	答え 3 工業出荷額の合計は中京工業地帯より少ないが、出荷額に占める輸送用機械の割合が高い傾向にある。	東海工業地域は、中京工業地帯と同様にオートバイや自動車部品などの「輸送用機械」の製造が盛んであり、出荷額に占める割合も高くなっています。しかし、トヨタ自動車関連の工場が集中する中京工業地帯に比べると、工業出荷額の総額では下回ります。北陸工業地域は輸送用機械の割合がこれら2地域に比べて低いため、統計上の判別ポイントとなります。
問5	答え 1 夏の気候が比較的冷涼であり、リンゴの生育に適した環境であるため	リンゴは冷涼な気候を好む作物であるため、日本では北部に位置する青森県や、標高が高く涼しい気候を持つ長野県が主な産地となっています。青森県は緯度の高さ、長野県は標高の高さをそれぞれ利用して、リンゴの生育に最適な「夏の涼しさ」を確保しています。このように、作物の栽培には地形や気候などの自然条件が深く関わっています。
問6	答え 4 じゃがいも	北海道は冷涼な気候と広大な土地を活かした大規模な畑作が盛んで、じゃがいもの収穫量は全国で圧倒的1位となっています。一方、長崎県は島原半島などを中心に、温暖な気候を利用して年に2回栽培する二期作が行われており、北海道に次ぐ主要な産地の一つとして知られています。これに対し、さつまいもは鹿児島県や茨城県が主な産地です。
問7	答え 1 北海道では大型機械を用いた大規模な畑作が行われ、長崎県では温暖な気候を活かした栽培が行われている。	この農産物はじゃがいもを指します。北海道（特に十勝平野など）では、トラクターなどの大型機械を導入した大規模な経営が行われています。長崎県では、冬から春にかけての温暖な気候を利用し、北海道産が出回らない時期に収穫・出荷する工夫がなされています。シラス台地での畑作は主に鹿児島県のさつまいもに見られる特徴です。
問8	答え 4 消費地に近いため、鮮度が重要となる野菜の生産や、輸送コストを抑えた畜産を組み合わせている。	近郊農業は、東京や大阪などの大消費地のすぐそばで展開される農業形態です。野菜は鮮度が落ちやすいため、消費地に近い場所で生産し、すぐに市場へ届けることで高い品質を保つことができます。また、肉や卵などの畜産物も消費地に近いことで輸送費用を節約できるため、これらを組み合わせた経営が多く見られます。
問9	答え 1 衣類	東京港や大阪港は、背後に巨大な人口を抱える大都市圏（消費地）が存在します。そのため、工場で使われる原材料よりも、私たちの生活に直結する衣類や食品、日用品などの「製品」の輸入が多くなるのが特徴です。一方、鉄鉱石や原油、液化天然ガスなどは、主に製鉄所や石油化学コンビナートがある工業港で多く扱われます。
問10	答え 3 道路網の整備が進み、自家用車やトラックが普及するモータリゼーションが進展したため。	1960年代の高度経済成長期に、名神高速道路や東名高速道路といった高速道路が建設され、自動車を利用した移動や物流の効率が飛躍的に向上しました。このように社会全体に自動車が普及し、生活様式が変化したことを「モータリゼーション」と呼びます。選択肢にある「モーダルシフト」は、近年、二酸化炭素排出削減などを目的に自動車から鉄道・船舶へ戻そうとする動きのことであり、設問の背景とは逆の現象です。
問11	答え 4 耕作放棄地	日本の農業が抱える大きな課題の一つに、働く人の高齢化があります。平均年齢が上昇し、体力的な理由で農作業が続けられなくなったり、子供などの後継者がいないために農地を引き継げなかったりすることで、手入れがされなくなった農地が増加しています。このような状況は、単に生産量が減るだけでなく、害虫の発生や防災機能の低下といった地域全体の課題にもつながっています。
問12	答え 4 人口が300万人を超え、事業所数も15万以上と突出して多い	宮城県（仙台市）や福岡県（福岡市）は、地方における政治・経済・文化の中心地です。これらの都市を抱える県は、周辺県に比べて人口や事業所（企業や工場など）の数が圧倒的に多く、人やモノ、経済活動が集中する「機能の集積」が見られるのが大きな特徴です。
問13	答え 3 乗用車の輸出額は、牛肉の輸入額を大きく上回っている。	日本とオーストラリアの貿易構造を金額で見ると、乗用車は約5700億円（1.5兆円の38%）の輸出額であるのに対し、牛肉は約1500億〜2000億円程度（約5兆円の3%強）の輸入額にとどまります。このため、特定の品目同士を比較した場合は工業製品である乗用車の輸出額の方が、農産物である牛肉の輸入額よりも大きくなります。一方で、貿易総額全体では資源などの輸入が多いため、日本の大幅な輸入超過（貿易赤字）となっている点に注意が必要です。